



農地情報

・平成12年8月21日 発行・編集 新潟県農地部

第60号

平成12年度会計検査院実地検査について

農地管理課農業土木工事検査監

農地管理課総合調整室技術開発担当

会計検査院農林水産検査第2課による平成12年度会計検査院実地検査が、三林副長ほか7名の調査官により7月24日から28日までの5日間行われました。

1. 検査対象について

今回は、177件の工事について実地検査が行われました。

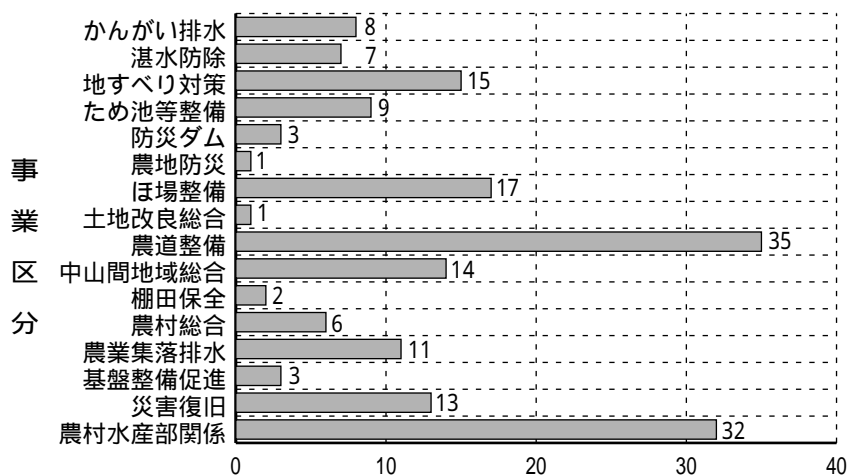
2. 検査結果の講評について

実地検査の結果、次の5点について講評がありました。

このうち、(1)、(2)、(3)については会計検査院で全国的に調査を行っているものです。

今回、設計上の問題点として(4)、(5)の2点が講評となりました。

今回実地検査の事業別検査件数
(7月24日～28日)



- (1) 公共事業の施行に伴い機能の廃止が必要となる公共施設の補償については、既存公共施設の機能廃止の時までの財産価値の減耗分を控除すること。
- (2) 地域農業経営確立総合対策事業については、推進事業と支援事業を有機的に連携させて推進すること。
- (3) 補助事業の再評価制度については、会計検査院としても制度の評価方法を分析することになっていること。
- (4) 揚水機場基礎工の支持杭の設計でボーリング柱状図の支持層のとらえ方に問題があること。
- (5) 農業集落排水処理施設におけるFRP製処理槽を鉄筋コンクリートで囲っていたが、除雪作業時の上載荷重（除雪車両）の必要性について検討する必要があること。

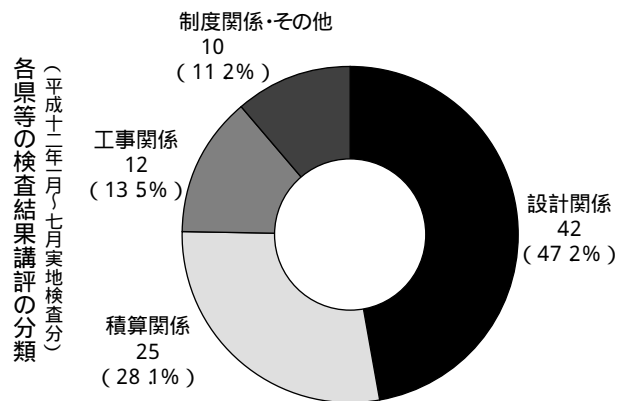
3．最近の検査傾向と設計積算の課題

近年は、設計、積算の適否が重点的に検査されています。

今年度の各県等の検査結果の講評内容をみても設計、積算に関する指摘が大きな比率（約75％）を占めています。

このため、これまでも増して技術者としての専門性を求められることから計画・設計・積算について細部まで把握しておく必要に迫られています。

講評時に項目としては載らなかったが、検査の過程で出てきた設計積算に関する課題のうち、主な事項を下記に掲載します。



調査官から問われた設計積算に関する事項（抜粋）

- ・ 整地工面積、明細書計上の端数処理について
- ・ 水抜きボーリングの機種選定・比較
- ・ 大口径ボーリングとダウンザホールハンマとの比較
- ・ 旧2次製品処理のダブル計上
- ・ 集排処理場配筋計算
- ・ 広幅矢板の採用
- ・ 地すべり杭の施工間隔、SKK490の選定
- ・ 暗渠排水の埋戻し（設計と施工実態）
- ・ ほ場排水計画時の流出率0.4について
- ・ 暗渠排水材の小運搬と移動手間について
- ・ ため池底桶の最小径について
- ・ 条件表「適用欄」の誤り（市場価格の表現）
- ・ 地すべりアンカー計算式の適用方法

この他にも、意見交換会で出された課題もかなりあり、これらを含めて整理のうえ、取扱い方針を定めるなどの作業を進めていく予定です。作業の中には、実態調査を行うものや、事務所から意見を聞く必要があるものが含まれていますので、御協力をお願いします。

なお、意見交換会で出された課題を含め、検討事項の詳細と作業工程について9月上旬にお知らせする予定です。ご覧のうえ意見等をいただけるようお願いいたします。

4．次年度の検査に向けて

今回の検査結果を踏まえ、事務所対応、本庁対応、連絡体制の強化、計画・設計・積算に関する改善点などについて、立会者、随行者、受検対応者それぞれの立場からの反省点等の意見をとりまとめ、「会検対応マニュアル（仮称）」を作成し、次回以降の会計検査に生かしていくことにしました。

このため、本庁では会計実地検査講評が行われた7月28日午後3時から、立会者、随行者を集めて、「会計検査の総括について」意見交換会を開催しました。また、8月8日、9日、11日と県内を3ブロックに分けて、農地事務所から受検対応者に集ってもらい、同じく意見交換会を開催、次回会検に向けた熱い意見がかわされました。

今回の「会検対応マニュアル（仮称）」と併せ計画・設計・積算についても、技術研修等により充実を図っていきたいので御協力をお願いします。